

## 県PTA連合会主催「子育てセミナー」から

栃木県PTA連合会が主催して毎年この時期に子育てセミナーを行っています。今年はテレビ等でお馴染みの心療内科医明橋大二氏の「子育てハッピーアドバイス」～思春期こそ意識したい子どもの「自己肯定感」～と題する講演会でした。ほんの一部ですが、紹介します。

### 1 今の日本の子供たちは自己肯定感が低い。

国際比較調査「自分は価値のある人間だと思う」と答えた高校生の割合

日本	36.1%	米国	89.1%	中国	87.7%
----	-------	----	-------	----	-------

(H23年「高校生の心と体の健康に関する調査」日本青少年研究所)

※今の子どもをめぐる問題の根っこは、「自己肯定感の極端な低さ」とみています。

明橋先生は、自己評価の低さ＝自己肯定感、自尊感情の低さとしています。

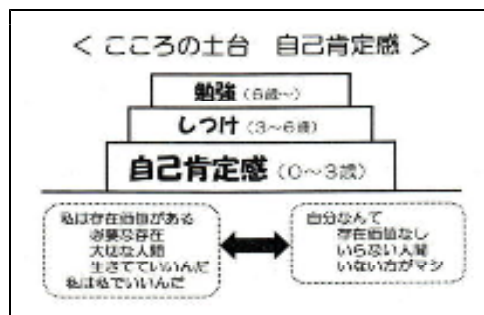
\*「自分は生きている価値がある」とか、「大切な存在だ」とか、「ありのままの自分が好き」という感覚を自己肯定感あるいは自尊感情とい

### 2 こころの成長の土台は自己肯定感である。

自己肯定感とは、だいたい0歳から3歳に育つ。お母さんに抱っこしてもらったり、おっぱいを吸わせてもらったり、「よしよし」してもらったり、そういうことを通じて、気持ちが育まれる。

そういう気持ちを土台として、初めて可能になるのが、しつけとか、生活習慣というものである。

そして、小学校生活において勉強が成り立つのです。



### 3 自己肯定感は育て直しができる。

子どもは、「どうせ」と言ったり、「おなかが痛い、頭が痛い」と言ったりと、いろいろなサインを出してくる。自己肯定感が低い、或いは下がったと気づいたら、「あなたは大切な人間なんだよ」「生まれてきて、よかったんだよ」「大好きだよ」という気持ちをしっかり伝えて、もう一度土台を育て直ししていけば、いくつになっても、いくらでもやり直しができる。

## 家庭における学習時間が増えました ～家庭学習がんばりカードの活用～

本校では、学力向上の対策の一つとして「家庭における学習習慣の定着」に力を入れています。家庭学習には、次の日の学習の予習とその日習った内容の復習が考えられますが、主として復習の時間をしっかり確保し、くり返し学習して定着を図ってほしいと考えています。そのため宿題の工夫をしたり、学習意欲を高めるはたらきかけをしたりしています。今回（10月20～24日）家庭学習がんばりカードを活用し、家庭における学習時間の確保及び増加をねらい強調週間を設定しました。

下記の表のとおり、大きな成果がありました。一過性の増加に終わることなく、家庭学習に取り組んでほしいと思います。引き続き御支援をお願いします。

家庭学習の平均時間<6月と10月の比較> (単位：分)

月 \ 学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	※家庭学習の強調週間であったとはいえ、子供たちの努力と保護者の皆様の御協力により、すべて学年で学習時間が大きく伸びました。
片小ブランドチェック票 (6月)	20	21	27	30	38	35	
家庭学習がんばりカード (10月)	29	33	41	36	51	53	

## 各種たよりを御活用ください

学校から学校、学年だよりをはじめ、保健、給食、図書だより等、多くのたよりを発信しています。旬な情報やお役に立ちそうな情報を選んで掲載していますので、ぜひ一読をお願いします。

11月の「学習指導だよりNo.7」では、家庭における学習の内容について、ヒントとなることを記載しました。家庭学習の充実のため御参考にしてください。